

第16回 科学技術社会論学会年次研究大会・総会（2017年度）プログラム

11月25日（土）

【第1セッション】 9:30 - 11:30

B-1-1 【OS】 技術者に求められる徳・能力と教育を考える

オーガナイザー：比屋根 均（ラーテン技術士事務所）

斉藤 了文（関西大学）

「科学技術はどのような意味でパターンリズムなのか」

直江 清隆（東北大学）

「科学技術における合意とその倫理性」

比屋根 均（ラーテン技術士事務所）

「技術者のコミュニケーションと PBL 教育」

田岡 直規（日本技術士会）

「科学技術の巨大化・総合化・複雑化，および不確実性下の工学教育の改善策～福島原子力発電所事故を教訓として」

C-1-1 【OS】 関与を紡ぐ

オーガナイザー：磯部 太一（北海道医療大学）

磯部 太一（北海道医療大学）

「ローカル志向を背景とした緩やかな関与」

市田 秀樹¹，松本 康史²，森 淳一³，影山 隆之⁴，濱中 良志⁴，伊東 朋子⁴，東島 仁⁵（日本文理大学¹，大分県立芸術文化短期大学²，社会医療法人敬和会 大分リハビリテーション病院³，大分県立看護科学大学⁴，山口大学⁵）

「科学技術を社会に生かす仕組み作りとその課題： オープンイノベーションの視点から」

東島 仁（山口大学）

「研究への患者・市民参画のあり方を探る」

吉田 幸恵¹，神里 彩子²（東京大学医科学研究所 公共政策研究分野¹，東京大学医科学研究所 生命倫理研究分野²）

「倫理審査委員会における「一般の立場」の委員の参画について」

D-1-1 【OS】 医療における〈法と科学〉

オーガナイザー：吉良貴之（宇都宮共和大学） 中村多美子（弁護士）

吉良 貴之（宇都宮共和大学）

「医療に関わる〈法と科学〉」

戸田 聡一郎（東北大学病院）

「遷延性意識障害患者における痛み刺激の倫理的正当化の検討：painless か painful か？」

小林 史明（明治大学）

「医療・健康の自己決定と操作可能性——データ利活用の規制のあり方」

永石 尚也（保健医療経営大学）

「因果関係論の〈法と科学〉——刑法上の因果を素材に」

E-1-1 【OS】 食と農の技術哲学

オーガナイザー：寺本 剛（中央大学）

寺本 剛（中央大学）

「農業の効率化をめぐる倫理問題」

鈴木 俊洋（上智大学）

「農業における新技術をいかに評価するか？」

齋藤 宜之，竹中 真也（中央大学）

「環境倫理と農業——P.B. トンプソンに即して——」

藤木 篤（久留米工業高等専門学校）

「農業害虫の人為的絶滅，その技術的変遷と倫理」

F-1-1 【OS】 食の安全をめぐる『コミュニケーション』の批判的検討

オーガナイザー：柄本 三代子（東京国際大学）

柄本 三代子（東京国際大学）

「食の安全をめぐる「コミュニケーション」の批判的検討——本セッションのねらい——」

下田 守（下関市立大学名誉教授）

「公害における「コミュニケーション不成立」の背景 — 水俣病とカネミ油症の経験から」

大塚 善樹（東京都市大学）

「「問い」としての科学コミュニケーション—農業バイオテクノロジーの場合—」

畑山 要介（日本学術振興会）

「オートポイエーシス理論からみた有機認証制度の意義——相互主観的同一性から構造的カップリングへ——」

【第2セッション】 11:40 - 13:10

D-1-2 【GS】 原子力災害とバックエンド問題①

座長：鈴木 達治郎（長崎大学）

金 燕（東京大学）

「原子力の地域対話における「透明性」の概念形成の過程—柏崎市を事例に—」

寿楽 浩太（東京電機大学）

「リアルタイム被害予測システム」の社会的逆機能の批判的検証：

SPEEDI 事例における政策的不作為の歴史的背景」

定松 淳（京都光華女子大学短期大学部）

「福島事故損害賠償体制の変容にみる原子力官産関係」

E-1-2 【OS】 地域への実装に向けた現状と課題-2016年11月22日福島沖地震の混乱を事例に-

オーガナイザー：松本 行真（東北大学）

松本 行真（東北大学）

「福島沖地震での津波警報による住民対応—四倉地区・沼ノ内区の隣組長調査から—」

山田 修司（東北大学大学院文学研究科）

「防災＝技術への参加と安全・安心の主体—津波防災としての避難訓練のデザインとその実装の課題—」

佐々木 隼相，綿引 周（東北大学大学院文学研究科）

「集団意識形成の場としての避難訓練（仮）」

F-1-2 【OS】 もうひとつの STS：3つの視点

オーガナイザー：木原 英逸（国士舘大学）

瀬戸口 明久（京都大学）

「ビッグ・サイエンス批判としての科学計量学」

木原 英逸（国士舘大学）

「リスクコミュニケーションの誕生——そして新たなリスク管理が始まった」

田中 智彦（東京医科歯科大学）

「〈忘却〉と〈事務化〉——戦後日本の生命倫理思想史から」

【昼休み】 13:10 - 14:20

14:20-16:20 大会実行委員会企画ワークショップ

「日本における軍事研究拡大の政策的意味」

会場：B 会場（2F 視聴覚ホール）

司会：小林 俊哉（九州大学）

吉岡 斉 (九州大学)

「兵器産業救済策としての安全保障技術研究推進制度導入」

佐野 正博 (明治大学)

「イノベーション視点から見た「デュアルユース」論」

夏目 賢一 (金沢工業大学)

「次世代戦闘機・科学技術外交・デュアルユース

ーバーゲニングパワー／ソフトパワーとしての政策展開ー」

16:30 - 17:10 総会

会場：B 会場 (2F 視聴覚ホール)

17:10 - 18:30 柿内賢信記念賞授与式総会・記念講演

会場：B 会場 (2F 視聴覚ホール)

【懇親会】 18:40 - 20:30

会場：医系食堂

11月26日 (日)

【第1セッション】 9:30 - 11:00

B-2-1 【GS】 高等教育史・産業政策史

座長：川野 祐二 (下関市立大学)

黒田 光太郎 (九州産業大学)

「幕末明治の科学・技術と女性化学者の誕生ー黒田チカと佐賀ー」

吉岡 有文 (立正大学)

「日本の1930年代の教育映画におけるトーキーの導入と教授観の変遷：
教育における映像メディアの科学技術社会論的検討」

中村 征樹 (大阪大学)

「戦後の石炭政策と産炭地」

C-2-1 【GS】 文化・多様性・イノベーション

座長：細井 浩志 (活水女子大学)

水田 和生 (京都産業大学)

「A Proposal for an Undergraduate Course: A Better 21st Century Mindset」

小野田 敬, 伊藤 泰信 (北陸先端科学技術大学院大学)

「公的研究基盤施設において施設の外部共用を行う科学者・技師の認識的文化」

一方井 祐子¹, 横山 広美² (滋賀大学¹, 東京大学²)

「科学のクラウドファンディング, その特徴と課題」

D-2-1 【GS】 AI の未来

座長：江間 有沙 (東京大学)

李 霄 (九州大学)

「自動運転の事情について」

小幡 哲士¹, 吉永 大祐¹, 田中 幹人² (早稲田大学大学院政治学研究科¹, 早稲田大学大学院政治経済学術院²)

「メディア空間における「人工知能」の語られ方」

E-2-1 【GS】 リスクコミュニケーション①

座長：藤木 篤 (国立久留米工業高等専門学校)

種村 剛 (北海道大学 CoSTEP)

「「討論の場作り」ができるリスクコミュニケーターの養成プログラム開発の試み」

田中 丹史 (東京大学)

「新型インフルエンザと日本のリスクコミュニケーション」

城下 英行 (関西大学社会安全学部)

「新たな防災教育観の提案－医療と医学におけるコミュニケーションに着目して」

F-2-1 【GS】 科学コミュニケーション

座長：川本 思心 (北海道大学)

洪 乃文, 田中 幹人 (早稲田大学)

「日本における HPV ワクチンの新聞報道分析」

伊勢田 哲治 (京都大学)

「多対多敵対的論争状況のモデル化と科学コミュニケーションへの含意」

西釜 義勝, 小林 俊哉 (九州大学)

「九州大学共進化社会システム・サイエンスカフェの展開」

【第 2 セッション】 11:10 – 13:10

A-2-2 【GS】 原子力災害とバックエンド問題②

座長：齋藤 靖（西南学院大学）

八木 絵香¹，北村 正晴²（大阪大学¹，株式会社テムス研究所²）

「高レベル放射性廃棄物処分問題に関する論点整理
一主張の異なる論者による対話を手がかりとして一」

寺本 剛（中央大学）

「高レベル放射性廃棄物処分のための世代間倫理」

永井 宏幸（市民科学研究室）

「労災認定を求める原発労働者の裁判一被曝線量をめぐる争いを主として一」

B-2-2【GS】合意形成・公共政策

座長：中村 多美子（弁護士 リブラ法律事務所）

吉田 悦子（東京大学大学院新領域創成科学研究科）

「環境政策における市民参加が実現する条件に関する考察」

鳥羽瀬 孝臣（技術士 電力会社勤務）

「社会的選択問題における合意形成」

福井 智紀（麻布大学）

「科学技術社会における意思決定と合意形成のための資質・能力の育成をめざした教材開発」

岡山 朋子（大正大学），内山 知実（名古屋大学）

「地方公共団体における極小規模（ピコ・ナノ）水力発電事業に対する意識調査」

C-2-2【GS】科学技術の倫理

座長：東島 仁（山口大学）

佐々木 香織（小樽商科大学）

「医療情報データの集積とその利用一未来像と理想像をめぐって」

小林 俊哉（九州大学）

「STS ステートメントは大学院生の研究倫理感醸成に寄与したかー3年間の振り返り」

川本 思心（北海道大学）

「デュアルユース問題に対する学術・大学研究者の態度」

杉本 めぐみ（九州大学）

「原発再稼働後の九州における防災教育での倫理観の醸成と実践について」

D-2-2【OS】人工知能が浸透する社会を考えるワークショップ2017

オーガナイザー：江間 有沙（東京大学）

江間 有沙 (東京大学)

「人工知能と社会に関する異分野連携グループ活動の方法論」

吉添 衛, 服部 宏充 (立命館大学)

「AIR-VAS システムの構築と意義について」

西條 玲奈 (北海道大学)

「ファン・フィクション論文事件についての一考察: 研究倫理の観点を中心に」

大澤 博隆 (筑波大学)

「オンライン技術が変える公と私の境界

: 二次創作研究炎上をめぐるガイドライン」

E-2-2 【GS】 リスクコミュニケーション②

座長: 小林 泰三 (帝京大学)

辛島 恵美子 (関西大学)

「日本語「安全を図る」と英語「take a risk」の異同の考察…翻訳文化の抱える課題」

早岡 英介, 種村 剛, 池田 貴子 (北海道大学 CoSTEP)

「現場取材を通じたリスクコミュニケーション養成」

F-2-2 【OS】 科学の不定性と社会: 現代の科学リテラシーとは

オーガナイザー: 本堂 毅 (東北大学)

本堂 毅 (東北大学)

「科学の不定性と社会: 現代の科学リテラシーとは」

中島 貴子 (立教大学)

「「科学の不定性」に気づき, 向き合うとは」

尾内 隆之 (流通経済大学)

「科学の不定性をめぐる政治作用」

笠 潤平 (香川大学)

「科学の不定性と理科教育」

【第3セッション】 14:10-16:10

A-2-3 【OS】 公害・被曝被害放置をもたらす<科学>-STS アクチュアリティ再構築にむけて (その1)

オーガナイザー: 柿原 泰 (東京海洋大学)

柿原 泰 (東京海洋大学)

「福島「県民健康調査」開始時における疫学的位置づけをめぐる」

上田 昌文（市民科学研究室）

「公衆衛生分野にみる科学のねじ曲げ（bending）手法の類型化」

藤岡 毅（同志社大学）

「アグノトロジーの視点から見た日本の低線量被曝問題」

永井 宏幸（市民科学研究室）

「放射線障害の疫学研究における＜有意性依存症＞」

B-2-3 【GS】 STS の理論①

座長：伊勢田 哲治（京都大学）

田中 隆文（名古屋大学）

「「硬い科学観」の人文社会分野への拡張とSTSボトムアップ手法への示唆」

柴田 清（千葉工業大学）

「科学技術社会論学会における「技術」の取り上げられ方」

五島 綾子（元静岡県立大学教授・市民科学研究室）

「ボーダレス化する時代のテクノサイエンス」

C-2-3 【OS】 予測をめぐる科学と社会

オーガナイザー：鈴木 舞（東京大学）

白川 展之，奥和田 久美（文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術予測センター）

「予測の方法論の変遷，予測モデルの活用の際に生じる課題」

瀬瀬 一起（東京大学地震研究所）

「地震動予測地図をめぐる論争」

有賀 暢迪（国立科博）

「数値モデルは（いつ）社会と出会ったか：台風進路予報の歴史から」

日比野 愛子（弘前大学）

「社会シミュレーションにみる予測の接続」

D-2-3 【OS】 製品開発と研究倫理：過去・現在・未来

オーガナイザー：齊藤 武郎（フジ虎ノ門整形外科病院）

栗原 千絵子（国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構）

「製品開発と研究倫理：過去・現在・未来—Introductory remarks」

齊尾 武郎（フジ虎ノ門整形外科病院）

「Manipulative business: 操作されるのは生命か，研究組織か」

河原 直人（九州大学 ARO 次世代医療センター）

「生命科学と生命倫理の転換期におけるデュアルユース問題」

黒木 俊秀（九州大学大学院人間環境学研究院）

「Disease mongering を超えて：精神疾患の生物学的・心理社会的理解の深化と多面性」

E-2-3 【OS】 女性研究者の実態と支援政策の国際比較：日本・米国・EU・中国の現状から

オーガナイザー：河野 銀子（山形大学）

横山 美和¹, 河野 銀子², 財部 香枝³, 小川 眞里子⁴, 大坪 久子⁵, 大濱 慶子⁶
（お茶の水女子大学¹, 山形大学², 中部大学³, 三重大学⁴, 日本大学⁵, 神戸学院大学⁶）

「女性研究者支援政策における『パイプライン理論』の展開：1985年-2015年」
大坪 久子（日本大学）

「全米科学財団（NSF）による女性研究者支援事業の流れと成果」
財部 香枝（中部大学）

「米国の女性化学者の実態と支援政策—化学遺産財団所蔵口述史資料の検討」
小川 眞里子（三重大学（名誉教授））

「EUにおける女性研究者の実態と支援政策について」
大濱 慶子（神戸学院大学）

「中国における女性科学技術者の現状とキャリア形成支援の取組」

F-2-3 【OS】 技術言説の虚構と現実

オーガナイザー：綾部 広則（早稲田大学）

高橋 さきの（翻訳者）

「第3次AIブームというハイプ—翻訳の現場から・労働の現場から」

松山 圭子（青森公立大学）

「医療技術ハイプ～夢の新薬と万能細胞～」

劉 晶（九州大学）

「福島事故後の中国の原子力発電」

杉本 めぐみ（九州大学）

「防災と科学技術」

黒田 光太郎（九州産業大学）

「水素社会，AIと自動車の行く末：燃料電池車対電気自動車」

【第4セッション】 16:20-18:20

A-2-4 【OS】 公害・被曝問題解決の条件-STS アクチュアリティ再構築にむけて

(その2)

オーガナイザー：林 衛（富山大学）

林 衛（富山大学）

「科学性と倫理性両立の条件-「STS が役に立たなかった」論の分析を出発点に」

中野 浩（東京海洋大学・非常勤講師）

「水俣病有機水銀説あいまい化に関与した科学者たちのその後」

山内 知也（神戸大学）

「計測されていない放射能が存在しないことにされ計測されなかった被曝がなかったことにされていることについて」

篠田 真理子（恵泉女学園大学）

「劇症型・典型例・急性症状以外の症状をどう捉えるのか」

B-2-4 【GS】 STS の理論②

座長：綾部 広則（早稲田大学）

吉永 大祐¹, 綾部 広則²（早稲田大学大学院政治学研究科¹, 早稲田大学大学院理工学術院 創造理工学部²）

「日本における STS 研究の 15 年—研究大会予稿集の定量的分析を通じて—」

王 戈（(国研) 科学技術振興機構）

「トランスディシプリナリ研究の概念的フレームワークの考察：研究支援の観点から」

D-2-4 【OS】 科学と社会との協働はいかにして可能か？トランスディシプリナリー研究の実践的試行と理論的整理の試み

オーガナイザー：花松 泰倫（九州大学）

花松 泰倫, 山下 奉海, 徳永 翔太（九州大学）

「持続可能な地域コミュニティ創出における「科学と社会との協働」：長崎県対馬市の事例を中心に」

藤原 敬大, 御田 成顕（九州大学）

「インドネシアの産業造林をめぐる視座と協働：生物多様性保全・経済開発・サブシステム」

横田 文彦（九州大学）

「インド無医村における ICT をつかった移動型健診・遠隔医療サービスプロジェクトの実践」

佐藤 辰郎（九州大学）

「地域のための小水力発電の実践：日本とインドネシアの農山村における取り組み」